

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330160

研究課題名(和文) 少子化社会における家族形成格差の調査研究 ソーシャル・キャピタル論アプローチ

研究課題名(英文) Survey Research on Family Formation Inequality in Low Fertility Society: A Social Capital Approach

研究代表者

小林 盾 (Kobayashi, Jun)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：90407601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、「人びとがどのように恋愛から結婚へ、さらに出産へと進むのか」を量的調査によってデータ収集し、家族形成における格差を解明することを目的としている。そのために、「人びとのつながりが強いほど、家族形成を促進するのではないか」という仮説をたてた。

第一年度に「2013年家族形成とキャリア形成についての全国調査」をパイロット調査として(対象者は全国20～69歳4993人)、第二年度に「2014年家族形成とキャリア形成についてのプリテスト」(対象者204人)を実施した。そのうえで、第三年度に本調査「2015年家族形成とキャリア形成についての全国調査」を実施した(対象者1万2007人)。

研究成果の概要(英文)：This project investigates how people proceed from love to marriage to child bearing by collecting quantitative data. It is supposed to clarify inequalities in family formation. For this purpose, we hypothesize that strong networks will accelerate family formation processes.

In the first year, we conducted a pilot survey "2013 National Survey on Family Formation and Career Formation in Japan" with 4,993 respondents (aged from 20 to 69). In the second year, "2014 Pretest on Family Formation and Career Formation in Japan" was conducted with 204 respondents. In the final third year, we collected data in "2015 National Survey on Family Formation and Career Formation in Japan" with 12,007 respondents.

研究分野：社会学

キーワード：社会階層 家族 社会調査 少子化 ソーシャル・キャピタル

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本社会はかつて、ほぼすべての人が一度は結婚する「皆婚社会」であった。ところが、1980年代から未婚者がふえはじめ、2010年には男性の生涯未婚率(50歳時未婚率)が19.4%、女性9.8%へと上昇して未婚化がすすんだ。同じ時期に少子化が進行し、合計特殊出生率(1人の女性の平均出産数)が1925年に5.1だったのが、1950年3.7、2010年1.4へと低下している。いっぽう、結婚形態はかつて見合いが中心だったが、1960年代後半に恋愛結婚が上回った。2005年で見合い結婚6.2%にたいして恋愛結婚87.2%となり、恋愛結婚化がすすんだ。

つまり、ここ数十年で恋愛結婚化、未婚化、少子化が同時に進行した。そのため、いわば恋愛を開始する際の「恋愛の壁」、恋愛から結婚への「結婚の壁」、結婚から出産への「出産の壁」が出現し、どれも乗り越えた人だけが子どもをもつことができたといえる。

(2) では、こうした壁はすべての人に平等に立ちあがるのだろうか。それともある階層の人には壁が低く、別の階層には高いのだろうか。もしこのことを解明できないと、ともすれば家族形成を通して階層格差が再生産され、拡大しかねない。

ところが、これまで国内でも国外でも、恋愛、結婚、出産における社会的格差を同時にあつかったデータは存在しなかった。たとえば、佐藤他編『結婚の壁』は恋愛から結婚への移行と、結婚から出産への移行における社会的格差を分析している。しかし、それぞれの使用データが異なるので、一貫したメカニズムを描けなかった。

2. 研究の目的

(1) これまで、ソーシャル・キャピタル(人びとのつながり)がどのように家族形成に影響するのかをしらべるために、「社会階層とライフスタイル調査」を実施した。その結果、ソーシャル・キャピタルが多い人ほど、結婚しやすいことをあきらかにした。

しかし、データ不足から、なぜそのようなものか、さらに出産にどうつながるのかを分析することができなかった。この溝を埋めるためには、人びとがどのように(異性同性ふくめ)ネットワーク形成してきたのか、その履歴を詳細に調べることが課題となっていた。

(2) そこで、全国の人びとを対象としたアンケート調査を実施し、人びとのネットワーク履歴をソーシャル・キャピタルとして測定することで、典型的な家族形成パターンを抽出する。その結果、少子化回避のために、だれにどのような支援が必要かを具体的に政策提言することを目指した。

3. 研究の方法

(1) この研究は、家族形成において人間関係のネットワークの役割に注目する。こうしたネットワークは、ソーシャル・キャピタルとよばれる。もし家族形成の社会的格差が存在するとすれば、その格差は、ソーシャル・キャピタルによって埋められるのだろうか。それとも、ソーシャル・キャピタルはかえって格差を拡大するのだろうか。

このことを解明するために、「人びとがどのように恋愛から結婚へ、さらに出産へと進むのか」を量的調査によってデータ収集する。そこで、「人びとのつながり(ソーシャル・キャピタル)が強いほど、家族形成を促進するのではないか」という仮説をたてた。信頼できる人が多いほど、コミュニケーション能力が向上したり、よい人を紹介してもらえるため、恋愛や結婚のチャンスが上昇するかもしれないからである。

(2) 第一年度に「2013年家族形成とキャリア形成についての全国調査」をパイロット調査として実施した(対象者は全国20~69歳4993人)。インターネット調査であり、母集団は全国男女20~69歳個人モニタ約100万人であった。サンプリングは、47都道府県と男女について、2010年国勢調査による人口比例で割りあてた(94セル)。セルごとに回収し、割りあてに達したら打ち切った。

(3) 第二年度に「2014年家族形成とキャリア形成についてのプリテスト」を実施した(対象者204人)。インターネット調査であり、母集団は全国男女20~69歳個人モニタ約100万人である。サンプリングは、男女と10歳ごと年齢階級について、2010年国勢調査による人口比例で割りあてた(10セル)。計画標本を1500人とし、最初の204人で打ち切った。そのため、セルごとの回収はしていない。追加依頼はしていない。

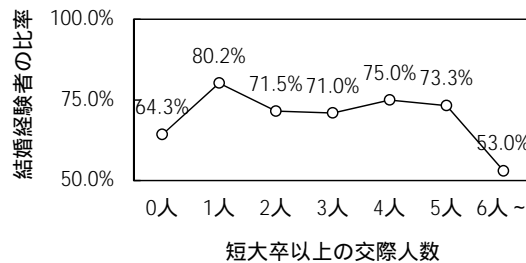
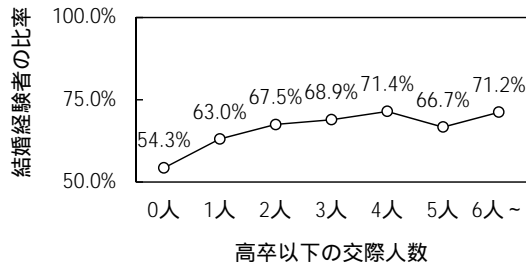
(4) そのうえで、第三年度に本調査「2015年家族形成とキャリア形成についての全国調査」を実施した(対象者1万2007人)。インターネット調査であり、母集団は全国男女20~69歳個人モニタ約90万人である。サンプリングは男女、10歳ごと5年齢階級、6地域(北海道東北、関東、中部、近畿、中四国、九州沖縄)によって、2010年国勢調査による人口比例で割りあてた(60セル)。セルごとに回収し、割りあてに達したら打ち切った。追加依頼をした。

4. 研究成果

(1) 恋愛の壁については、世代ごとの恋愛経験を比較することで、男性はここ数十年間に積極的なグループと消極的なグループに二極化したことがわかった。一方、女性は全体として積極的になっていった。おそらく、そのような規範意識が仲間うちで普及したためであろう。ただし、学歴による違いはなか

った。

(2) 結婚の壁については、結婚前の交際人数に着目し、ソーシャル・キャピタルとして役割を分析した。その結果、学歴によってメカニズムが異なることがわかった。中卒と高卒のグループでは、交際人数が多いほど結婚するチャンスが上昇した。一方、短大・高専・大卒のグループでは、交際人数がほどほど(3~4人)のときにもっとも結婚でき、これ以上になるとチャンスがかえって低下した。ただし、男女や年齢による違いはなかった。



(3) 以上から、ソーシャル・キャピタルが豊かなほど、家族形成がスムーズであることが明らかになった。ただし、出身階層や自分の階層の影響は、限定的であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

小林 盾、渡邊 大輔他、回収率70%への挑戦、成蹊大学一般研究報告、査読無、49巻、2015、1-16

J. Kobayashi, Y. Sato et al., How to Get a Longer Job?, *International Journal of Japanese Sociology*, 査読有、24号、2015、20-29

小林 盾他、なぜ幸福と満足は一致しないのか、成蹊大学文学部紀要、査読無、50号、2015、87-99

小林 盾他、生活に満足している人は幸福か、成蹊大学文学部紀要、査読無、49号、2014、229-237

〔学会発表〕(計5件)

小林 盾他、ほんとうに若年男性は草食化したのか、2014、日本社会学会(神戸大学)

J. Kobayashi, Investment in Romance as Social Capital, 2014、ネットワーク分析国際学会(フロリダ)

J. Kobayashi, Romance to Marriage Transition, 2013、アメリカ社会学会(ニューヨーク)

小林 盾、何人と交際すれば結婚できるのか、2012、日本社会学会(札幌学院大学)

J. Kobayashi, Effects of Social Capital on Romance and Marriage, 2012、国際社会学会(プエノスアイレス)

〔図書〕(計2件)

小林 盾他編、風間書房、データで読む日本文化、2015、167

山田 昌弘・小林 盾他編、新曜社、ライフスタイルとライフコース、2015、200

〔その他〕

ホームページ

<http://www.fh.seikei.ac.jp/kazoku/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

小林 盾 (KOBAYASHI, JUN)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：90407601

(2)研究分担者

山田 昌弘 (YAMADA, MASAHIRO)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：90191337

金井 雅之 (KANAI, MASAYUKI)

専修大学・人間科学部・教授

研究者番号：60333944

辻 竜平 (TSUJI, RYUHEI)

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号：40323563

千田 有紀 (SENDA, YUKI)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号：70323730

渡邊 大輔 (WATANABE, DAISUKE)

成蹊大学・文学部・講師

研究者番号：20629761

(3)連携研究者

佐藤 倫 (SATO, YOSHIMICHI)

東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90196288

筒井 淳也 (TSUTSUI, JUNYA)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：90321025

谷本 奈穂 (TANIMOTO, NAHO)
関西大学・総合情報学部・教授
研究者番号：90351494